

# 日本地衣学会 No.179

## ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

### 目次

会務報告	705
日本地衣学会評議員会（メール会議：2024年6月17日～6月25日）	
議事録／坂田 歩美	705
日本地衣学会評議員会（2024年7月13日，オンライン）議事録	
／坂田 歩美	706
日本地衣学会第23回総会（2024年7月13日，オンライン）報告	
／坂田 歩美	709
会員通信	709
服部植物研究所訪問記（2024年5月）／原田 浩	709
落葉樹のクリの葉に生葉上地衣が着生する／原田 浩	711
お知らせ	712
千葉県立中央博物館生態園トピックス展「生態園の地衣類」開催中	
／坂田 歩美	712

### 会務報告 *Reports of the JSL Activities*

#### 日本地衣学会評議員会（メール会議：2024年6月17日～6月25日）議事録 *Report of the JSL Councilors' Meeting on E-mail, 17-25 June 2024 / by SAKATA Ayumi*

>>>>>>> 坂田 歩美：庶務幹事

開催期間：2024（令和6）年6月17日（月）～6月25日（火）

参加者（敬称略）：（議長）坂東誠，（評議員）甲斐久博，河崎衣美，木下靖浩，小峰正史，清水公徳，中庵裕之，（会長）木下薫，（幹事）坂田歩美，小杉真貴子，（編集委員長）綿貫攻

\* \* \*

自然史学会連合から審議を依頼された科学研究費助

成事業の全体額増加に関する要望書と署名運動についての審議が行われ，自然史学会連合として，また所属する学協会のそれぞれで（1）要望書の趣旨に賛同すること，（2）署名運動に賛同すること，（3）署名をホームページや SNS サイト等で会員に呼びかけることの3点について賛成・同意することが，審議に参加した議決権を有する方全員によって承認されました。

# 日本地衣学会評議員会（2024年7月13日、オンライン）議事録

Report of the JSL Councilors' Meeting (Online), 13 July 2024 / by SAKATA Ayumi

>>>>>>> 坂田 歩美：庶務幹事

開催日：2024（令和6）年7月13日（土）

開催地：オンライン

参加者（敬称略）：（議長）坂東誠，（評議員）甲斐久博（委任状），河崎衣美，木下靖浩（委任状），小峰正史（委任状），清水公徳（委任状），中髙裕之（委任状），（会長）木下薫，（庶務幹事）坂田歩美，（会計幹事）小杉真貴子，（編集委員長）綿貴攻

\* \* \*

2024年7月13日（土）に開催された評議員会で審議した今年度の事業計画案（+予算案）などが以下の通り承認されました。

## I. 2023年度事業報告

1. 会員数は、2023年12月31日167名（一般109、学生15、海外一般25、海外学生8、団体2、名誉8）で前年度末より3名減少した。
2. 以下の報告が承認された。

### （1）主催大会，観察会

①日本地衣学会第22回大会：清水公徳氏（東京理科大学）を大会委員長として、東京理科大学葛飾キャンパス（東京都葛飾区）にて2023年7月15日（土）～7月16日（日）に開催された（参加者22名、講演等：一般講演13題、総会終了後、東京理科大学学食TUSダイニングで懇親会を開催）。

②第22回学会主催観察会：開催しなかった。

### （2）総会

日本地衣学会第22回大会総会を2023年7月15日（土）、対面の形式で開催した。2023年6月20日（火）～7月14日（金）に開催さ

れた評議員会（メール会議）と7月15日（土）に開催された評議員会での報告事項、審議事項、承認事項について報告した。

### （3）学会誌等の発行

①学会誌 Lichenology：第21巻1号（2023年3月31日発行）、2号（2023年7月15日発行）、第22巻1・2号（2023年12月22日発行）

※Lichenology 第22巻1・2号の印刷費支払いは2024年度に行った。

②日本地衣学会ニュースレター：168号（2023年2月27日）、169号（3月23日）、170号（5月11日）、171号（6月8日）、172号（8月8日）、173号（10月16日）を発行、それぞれホームページで公開。

### （4）委員会の活動

#### ①地域活性化委員会

- ・第43回青空地衣教室：開催を検討したが、実施しなかった。
- ・第16回秋田ワークショップ：開催を検討したが、実施しなかった。

#### ②学術交流委員会

- ・自然史学会連合：2023年6月4日（日）、総会開催。坂田歩美氏が出席した。今年度分は昨年度支払い済み。
- ・日本分類学会連合：2023年1月7日（土）、総会とシンポジウム開催。木下会長・坂田歩美氏が出席した。
- ・日本菌学会対応：2023年5月27日（土）

～28日(日)に第67回大会がハイブリッド形式で熊本県民交流会館パレアにて開催された。また、2023年9月30日(土)～10月1日(日)に菌類観察会(秋田フォーレ)が秋田県乳頭温泉郷で開催された。

・その他：日本植物学会への対応については、引き続き事務局で検討。

③ホームページ運営委員会：学会誌・ニュースレターなどの過去および未掲載の情報を学会HP内に掲載し、常に最新情報を会員に提供できるように努めた。

④国際学会対応委員会：担当を検討中。

⑤日本の地衣フロラ解明プロジェクト：図鑑改定の一環として「日本地衣類誌」の執筆を検討し、チェックリストの改定作業を進めた。ウェブ図鑑は、千葉県立中央博物館のデジタルミュージアムのコンテンツとして「日本の地衣類(ウェブ図鑑)」等々を2022年にアップして、「地衣成分」を2023年にアップした。これらは今後も更に充実していく。「日本産地衣類のDNAバーコーディングのためのデータベース」の学会HP内における本格運用を始めており、更に整備を進めていく。

## II. 2023年度決算報告・監査報告

報告は承認された。

## III. 入・退会承認

入会および退会者について承認された。

## IV. 2024年度事業計画

### 1. 主催大会、観察会

(1) 日本地衣学会第23回大会：小杉真貴子氏(基礎生物学研究所)を大会委員長として、2024年11月16日(土)～17日(日)に基礎生物学研究所(愛知県岡崎市)で開催予定。

(2) 第23回学会主催観察会：学会主催観察会の代

わりに、2024年11月17日(日)午後に青空地衣教室を愛知県岡崎市の岡崎公園(岡崎城)または基礎生物学研究所付近で開催予定。

### 2. 印刷物発行

(1) 学会誌 Lichenology：第23巻1号(2024年5月31日発行)、2号(2024年11月発行予定)。

(2) 日本地衣学会ニュースレター：174号(2024年2月9日)、175号(3月21日)、176号(4月25日)、177号(5月22日)、178号(5月30日)を発行、それぞれホームページで公開。次号以降はホームページで逐次公開を予定。

### 3. 委員会(各委員長)

#### (1) 地域活性化委員会

・第43回青空地衣教室：2024年11月17日(日)午後に愛知県岡崎市の岡崎公園(岡崎城)または基礎生物学研究所付近で開催予定。

#### (2) 学術交流委員会

・自然史学会連合：2024年6月29日(土)、総会開催。坂田歩美氏が出席。

・日本分類学会連合：2024年1月6日(土)、総会とシンポジウム開催。木下薫会長・坂田歩美氏が出席。

・日本菌学会：2024年5月17日(金)～19日(日)に第68回大会がハイブリッド形式で八戸ポータルミュージアムほかにて開催された。

・その他：日本植物学会への対応については、引き続き事務局で検討。

(3) ホームページ運営委員会：学会誌・ニュースレターなどの過去および未掲載の情報を学会HP内に掲載し、常に最新情報を会員に提供できるように努める。

(4) 国際学会対応委員会：担当を検討中。

(5) 日本の地衣フロラ解明プロジェクト：図鑑改定の一環として「日本地衣類誌」の執筆を検討した。ウェブ図鑑は、千葉県立中央博物館のデジタルミュージアムのコンテンツとして「日本の地衣類（ウェブ図鑑）」等々を2022年にアップして、「地衣成分」を2023年にアップした。これらは今後も更に充実していく。「日本産地衣類のDNAバーコーディングのためのデータベース」の学会HP内における本格運用を始めており、更に整備を進めていく。「日本の地衣フロラ解明プロジェクト」の名称を「日本地衣類誌編纂委員会」変更して、その中でチェックリストの改定作業を進める。

#### 4. 学会運営等

##### (1) 会員数

- ・2023年12月31日：167名(一般109, 学生15, 海外一般25, 海外学生8, 団体2, 名誉8)
- ・2024年7月13日現在：169名(一般109, 学生17, 海外一般25, 海外学生8, 団体2, 名誉8)

#### V. 2024年度予算案

本予算案は承認された。

#### VI. 審議事項

議題1) 王立松氏(推薦者: 原田浩氏)の名誉会員への推薦について

議題2) 「日本地衣学会会則」と「学会事務局についての内規」の改正について

各議題の審議結果は以下のとおり、各議題の審議結果における承認は、いずれも議決権を有する審議参加者3名(議長・評議員・会長)と委任状提出者5名全員の賛成・同意を以ってなされた。

議題1) 王立松氏(推薦者: 原田浩氏)の名誉会員への推薦について

王立松氏(推薦者: 原田浩氏)の名誉会員への推薦があった。審議した結果、議決権を有する審議参加者(委任状提出者を含む)全員が王立松氏を名誉会員候補とすることに賛成・同意した。議決権を有する審議参加者(委任状提出者を含む)の過半数が賛成・同意したことから、王立松氏を名誉会員候補とすることに決定し、会長に報告(答申)した。

議題2) 「日本地衣学会会則」と「学会事務局についての内規」の改正について

事務局がある千葉県立中央博物館では2024年4月1日より組織改編が行われ、部署名が変更になりました。この組織改編に伴い、本会の所在地の変更のための「日本地衣学会会則」および「学会事務局についての内規」の改正が承認されました。

##### 【「日本地衣学会会則」の改正内容】

1. 第18条にある本会の所在地を以下のように変更  
〒260-8682 千葉県千葉市中央区青葉町955-2 千葉県立中央博物館 生物学(植物・菌類)研究グループ
2. 附則に以下の文を追記  
2024年7月13日第18条改正

##### 【「学会事務局についての内規」の改正内容】

1. (2)にある事務局(一般事務)の所在地を以下のように変更  
〒260-8682 千葉県千葉市中央区青葉町955-2 千葉県立中央博物館 生物学(植物・菌類)研究グループ
2. 附則に以下の文を追記  
2024年7月13日改正

---

## 日本地衣学会第 23 回総会（2024 年 7 月 13 日、オンライン）報告

Report of the 23rd General Meeting of the JSL (Online, 13 July 2024) / by SAKATA Ayumi

>>>>>>> 坂田 歩美：庶務幹事

日本地衣学会第 23 回総会を 2024（令和 6）年 7 月 13 日（土）、オンラインにて開催いたしました。坂田歩美庶務幹事が当日を含め今年度中に開催された 6 回の評議員会での報告事項、審議事項、承認事項などについて報告いたしました。

評議員会で賛成・同意した名誉会員候補、棚橋孝雄氏（推薦者：竹仲由希子氏）と王立松氏（推薦者：原

田浩氏）の 2 名を会長は総会に名誉会員候補として推薦し、総会出席者の過半数の賛成・同意を得ることができたことから、両氏は名誉会員として承認されました。

皆様のご協力を得まして、滞りなく総会を終了することができました。この場を借りて御礼申し上げます。

## 会員通信 From Members

---

### 服部植物研究所訪問記（2024 年 5 月）

Hattori Botanical Laboratory, Visited in May 2024 / by HARADA Hiroshi

>>>>>>> 原田 浩：千葉県立中央博物館

2024 年 5 月、とある用事で宮崎県日南市を訪れた。ここには世界で唯一のコケ専門の研究所と謳われている服部植物研究所がある。以前、一度だけ研究所前まで来たが、中までじっくりと見学するのは、今回が初めてである。本会会員には、ご存じない方も多いため、紹介しておく。

#### 服部植物研究所とは

服部植物研究所（図 1）は、宮崎県南部の日南市の飫肥（おび）城跡の比較的近くに、服部新佐（はっとり しんすけ）氏が、コケの研究のために 1946 年に設立された研究所である。伝え聞くところによると、氏は、国立の研究機関に就職したのだが、研究に専念できる環境ではないため、理想的な研究所を自ら設立



図 1. 服部植物研究所「常設展示場」外観

されたという。

所長の服部氏（タイ類）に加え、後に、岩月善之助（いわつき ぜんのすけ）氏（蘚類）、水谷正美氏（たみ せいみ）氏（タイ類）、更に、当会初代会長の吉村庸（よしむら いさお）氏（地衣類）といった著名な研究者が、ここで机

を並べて研究されていたという。私が聞いている範囲内では、服部氏は岩月、吉村両氏をアメリカのテネシー大学の蘚苔類学者の Sharp 氏の下に留学させ、帰国後、国内で学位を取らせたのだという。その後、吉村氏は高知へ転出され、1976年に岩月氏が2代目所長となった。

この頃には「服部植物研究所報告」(Journal of the Hattori Botanical Laboratory)は、世界中の蘚苔類・地衣類の学位論文が掲載されるような、他に類を見ない雑誌になっていた。各号が300ページを超え、主に英語、これにドイツ語の論文が混じっており、これが年に2号程度発行されていた。当時、岩月氏が編集にあたっていたと聞かすが、それを処理する能力と労力は計り知れない。こういったことを可能にしたのも、服部氏の存在無くしてはあり得なかっただろう。

私が広島大学大学院に在学していた1983年～1988年には、服部植物研究所は、世界に冠たる存在になっていた。大学院の研究室では、教授は代々、蘚苔類を専門とされており、蘚苔類を研究する多くの大学院生が全国から集まってきていた。地衣類を専門とする著者は、それほど研究所と接点はなかったが、周りの先輩からは、「服部研」(このように呼ばれることが多いことから、本文のこの後は可能な範囲内でこの名称を使う)がすごいぞということは聞いていた。当時の教授の安藤久次教授の次が、まさか「服部研」所長であった岩月氏になるとは、学生一同びっくりしたものだ。1984年のことだった。

### 服部植物研究所 一その後、現在へ

服部氏が1992年に亡くなると、1993年に岩月氏は広島大学退職後に岡崎に転居され、そこを岡崎分室として研究報告の編集を続けられた。また2002年には吉村氏も同様に高知分室で再スタートされてい

る。しかし、研究報告は、2006年の100号をもって休刊することとなった。

翌2007年に南壽敏郎(なす としろう)氏が理事長に就任された時は、日南には研究者が不在だった。その一方で、2011年に「常設展示場」を開館、2013年には公益財団法人へと移行し、標本の管理に加え、普及的な活動を加えるようになった。

日南での研究再開は、2017年に片桐知之氏(タイ類)を所長に迎えるのを待つこととなった。しかし彼も2021年には高知大学に転出され、いったん研究者が不在となったのだが、翌2022年には中国から鄭天雄(Zheng Tian-Xiong)(日本では「てい」さんと呼ばれている)が研究員に就任され現在に至っている。

因みに、ウェブサイト「服部植物研究所」によると蘚苔類標本は約50万点を所蔵しているとのこと、これは国内最大規模となっている。地衣類は約2万点とされている。

### 服部植物研究所の見学

研究所の位置する、飫肥の街は観光地として一定の人気がある場所になっている。「九州の小京都」と呼ばれる落ち着いた街並みで、「飫肥城下町保存会」による「飫肥城下町食へ歩き・町歩きマップ」の企画にも「服部研」は参加している。

研究所には幾つか建物があるが、「研究・標本棟が国登録有形文化財(建造物)」に登録されているのだという。このうちの1棟が、国道222号線に面した「常設展示場」(図1)である。古い洋館風の造りになっていて、玄関(図2)にも趣がある。飫肥城の時代ではないが、昭和初期のレトロな雰囲気、観光資源になっているのだろう。館内の1階は板敷で、机の上に顕微鏡などが並べられ、ちょっとしたコケの紹介コーナーとなっている(図3)。年末年始とお盆の期間を



図2. 服部植物研究所「常設展示場」の玄関。



図3. 服部植物研究所「常設展示場」1階。

除き、毎日10時～16時まで開館している。入場は無料となっている。私が訪問したときにも、ときおり観光客が訪れていた。

「服部研」がこんなすごい雑誌を発行し続けた機関であることを踏まえたうえで、この、のどかな日南の餌肥の地を訪れると、不思議な感覚に襲われてしまう。

かつて服部氏がお元気な頃には、世界の蘚苔類学者が訪問していたのだという。

\* \* \*

#### ウェブサイト

「服部植物研究所」. <https://hattorilab.org/>

## 落葉樹のクリの葉に生葉上地衣が着生する

*Foliicolous Lichens Growing on Leaves of the Deciduous Hardwood, Castanea crenata, in Chiba-ken, Central Japan / by HARADA Hiroshi*

>>>>>>> 原田 浩：千葉県立中央博物館

千葉県立中央博物館では「コケサークル（地衣類）」というサークル活動があって、年に3回ほど地衣類観察会を計画しているが、このうちの1回を2024年10月27日に千葉県中央部に位置する「市原クオードの森」で実施した。このとき、落葉樹のクリの葉に生葉上地衣が着生していたのを発見したので紹介する。

生葉上地衣といえば、通常は常緑樹の葉に着生し、場合によっては常緑のシダ植物の葉に着生することがあるというのが常識である。一方、落葉広葉樹は、葉を春に展開し、秋には落葉するため、生葉上地衣が着生しないものと考えられているのではないだろうか。著者もそのような認識であり、採集や観察会の時に、

落葉樹の葉を調べることはない。この観察会でも、これまでにも何度か生葉上地衣の着生を確認していたサザンカとキンモクセイ（いずれも常緑広葉樹）のそばに立ち止まり、葉に着生する、ウスチャサラゴケ *Coenogonium subluteum* (Rehm) Kalb & Lücking, ヒノキノアオバゴケ *Fellhanera bouteillei* (Desmaz.) Vězda, ヒゲゴケ科 Gomphillaceae を見つけ、紹介していた。そのとき参加者の一人が、隣に立つクリの葉を取って、生葉上地衣ではないかと持ってこられた。「そんなはずはない」と言いながらも、その葉を観察すると、小さな地衣体があるではないか。



図1. 生葉上地衣が着生するクリの葉. 2024.10.27 採集, 10.29 撮影.

何枚かの葉を持ち帰り、次の出勤日の29日に撮影したのが図1である。これらのクリの葉は、既に一部が茶色く変色しており、間もなく枯れて落葉しそうな雰囲気を出している。一方、葉の各所に白っぽいパッチが見えるが、これがヒゲゴケ科であった。

この生葉上地衣については今後詳しく調べる予定で

ある。・・・当日私は、間もなく散る落葉樹の葉に着生したこれらを、「かわいそうな生葉上地衣」と称したが、果たしてそうなのかな・・・と疑い始めているところである。ひととおりの検査の後、詳細を Lichenology に投稿する予定である。乞うご期待。

## お知らせ *News and Announcements*

### 千葉県立中央博物館生態園トピックス展「生態園の地衣類」開催中

“Lichens of the Ecology Park”, a small exhibition at the Natural History Museum and Institute, Chiba / by SAKATA Ayumi

>>>>>>> 坂田 歩美：千葉県立中央博物館

千葉県立中央博物館では生態園トピックス展「生態園の地衣類」を令和6年10月16日（水）から12月22日（日）まで、生態園オリエンテーションハウスで開催しています。

2019年から2023年にかけて、生態園に生育している地衣類の目録を作るために調査を行いました。この調査結果に基づき、生態園を代表する地衣類や生態園では珍しい地衣類を写真と実物で紹介しています。



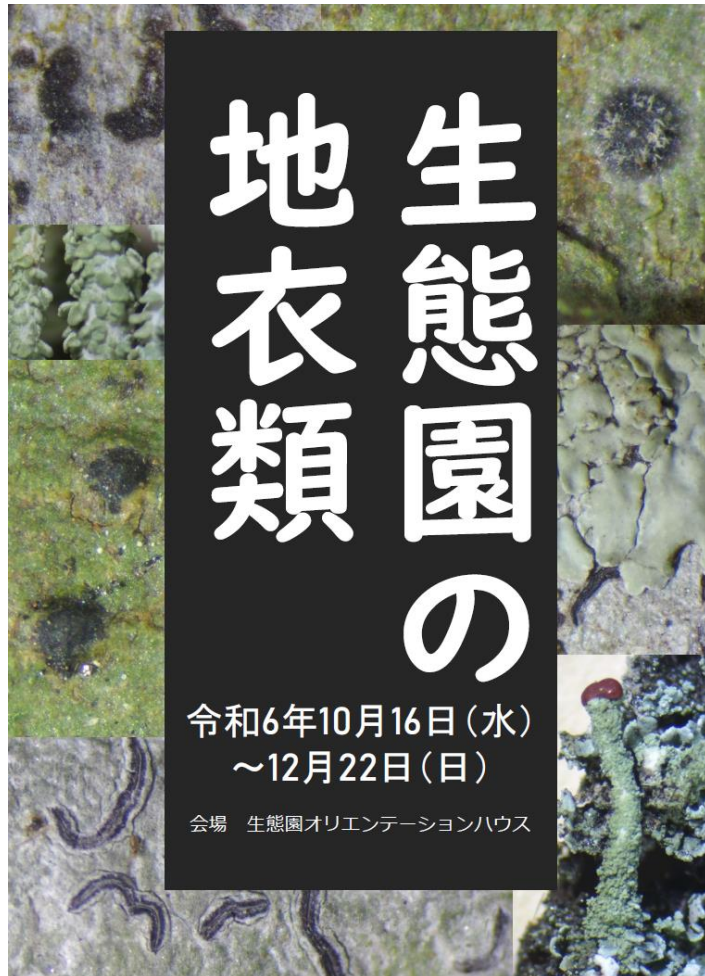


図1. 「生態園の地衣類」のポスター.



図2. 生態園を代表する地衣類 ニセモジゴケ.

---

## ◆原稿募集

本誌は、会員からの原稿を随時募集しています。地衣類にまつわるエピソード、思い出、あるいは地衣類に関する写真とタイトル、簡単な説明文だけでも受け付けます。電子メールにて次のアドレス宛に投稿御願います：  
bandomakoto@aa6.mopera.ne.jp（坂東 誠）

## ●複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、(社)日本複写権センターと包括複写許諾契約を締結されている企業の従業員以外は、図書館も著作権者から複写権等の行使の委託を受けている次の団体からの許諾を受けてください。著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、直接本会へご連絡ください。

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル 学術著作権協会。

Tel: 03-3475-5618. Fax: 03-3475-5619.

E-mail: naka-atsu@muj.biglobe.ne.jp

アメリカ合衆国における複写については、次に連絡してください。

Copyright Clearance Center, Inc. 222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA.

Phone: (978) 750-8400. Fax: (978) 750-4744

## ●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission from the following organization which has been delegated for copyright for clearance by the Japanese Society for Lichenology.

Except in the U.S.A.: Japan Academic Association for Copyright Clearance (JAACC).  
6-41 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0052  
Japan. Tel: 81-3-3475-5618. Fax: 81-3-3475-5619.  
E-mail: naka-atsu@muj.biglobe.ne.jp

In the U.S.A.: Copyright Clearance Center, Inc. 222  
Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA. Phone:  
(978) 750-8400. Fax: (978) 750-4744.

●*Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 179, pp. 705-714: eds. Bando M., Kawasaki E., Tanaka K., published by the Japanese Society for Lichenology, 2 Dec. 2024.

---

日本地衣学会ニュースレター179号

発行日：2024年12月2日

編集：坂東誠・河崎衣美・田中慶太

発行者・発行所：日本地衣学会

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2

千葉県立中央博物館内

---

---

©2024日本地衣学会 (© 2024 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複写等は固くお断りいたします。